

No.	10-2-12	場所	駒ヶ根市落合		次世代への継承キーワード
名称	落合集落 14 戸流失のあと				災害現象理解
災害現象	土石流			河川	新宮川
補足事項				支流	

諏訪市  
岡谷市  
辰野町  
箕輪町  
南箕輪村  
伊那市  
高遠町  
長谷村  
宮田村  
**駒ヶ根市**  
飯島町  
中川村  
大鹿村  
松川町  
高森町  
豊丘村  
喬木村  
上村  
飯田市  
南信濃村  
清内路村  
阿智村  
浪合村  
平谷村  
下條村  
阿南町  
売木村  
天龍村

上流でがけ崩れが約390ヶ所で発生し、土砂が新宮川に一気に流れ込んだ。竜東（伊那山地）では駒ヶ根市中沢新宮川、百々目木川流域一帯で、死者・行方不明5名、被災人員 558 名に及び人的被害と家屋や発電所の倒壊、橋の流失等の建物にも被害が生じた。

百々目木、大洞地区などでは、土石流によって60戸以上が流出全壊、農地のほとんどが失われた。

●体験談：災害時、駒ヶ根市上割在住の方

<6月27日、中沢の落合地区が危険と知らされ、応援に行った家で夜> 全員炉端の廻りで地下足袋を履いたまま横になった。(略) 近くの激しい川の流れの音で目覚める。全員でしらじらと明けて来た外に出て啞然とする。道路両側に立ち並んでいた落合集落の家並が消えて無くなり、道路と家並の跡が完全に轟々と流れる濁流の川に変わっていた。家並の一番下にあった小林さんの家は、只一軒二階建て造りの家であったが、水の流れの変化が流されずに、一階部分が完全に土砂に埋まり、二階部分と屋根だけが川の中に残っていた。その目の前を十畳二間続き程の大きさの竹藪が、竹が立ったまま流れて行く。と、間もなく道路向う側にあった住宅の宅地が見る間に川の流りに削られて、建物が積木細工を倒したように、あっという間に水の中のみ込まれて行った。

(中沢公民館文集「溪聲」36災害特集号 p.8)

記 録



家屋等 14 戸が流失した落合部落

出典 「駒ヶ根市の災害史」p.5/ 中沢公民館文集「溪声」第 38 号 p.8

備考 概要欄の< >は編者が補足説明したものです。

No.	10-2-12	場所	駒ヶ根市落合	緯度	35.720002
-----	---------	----	--------	----	-----------

名称	落合集落 14 戸流失のあと	経度	138.021069
----	----------------	----	------------

地図 広域図



地図 詳細図



備考 上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通称：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。